

## 生命環境学部

### 生命環境学部の教育の理念・目標

生命環境学部は、「生命」と「環境」に関わる諸領域の学術を学際的、総合的に考究することを目的として、人間の生活や産業などの諸活動と自然環境との共生を図るための知識と技術を身につけられるようにします。具体的には、

1. 生命分子機能の応用
2. 生物機能開発と食料生産の向上
3. 食環境と健康の向上
4. 自然環境と情報環境の向上
5. 人間生活と住環境の向上
6. 森林の保全と利用

に関わるそれぞれの領域で、第一線で活躍できる人材育成を目標としています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

生命環境学部では、「生命」と「環境」に関わる学術を学際的、総合的に身につけた人材育成のため、次の能力や学識を身につけた学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 生命と環境に関わる広汎な教養に裏付けられた知識や汎用的技能を習得している
2. 生命と環境に関わる自然科学分野についての専門的知識や技術を習得している
3. 課題を見いだす洞察力と課題解決の筋道を見いだす能力を身につけている
4. 広い視野と柔軟な思考力を身につけている
5. 培ってきた知識や自ら行った研究内容を的確に表現できる能力を身につけている
6. 「生命」と「環境」に関わる学問領域について、情報収集や国際的コミュニケーションを行う能力を習得している
7. 社会的かつ学術的に高い倫理観を身につけている

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生命環境学部では、ディプロマ・ポリシーに適う教育を、学部に属する6つの学科ごとの教育プログラムに反映させ、これに基づいて教育・研究活動を行います。

いずれの学科においても、1年・2年次を中心に、全学共通の教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目、そして教養展開科目を履修させ、人間としての豊かな教養・汎用的技能を育むと共に、学部共通科目を履修させることにより各分野に共通する生命と環境に関わる自然科学や人文社会科学についての基礎的知識や総合的知識を習得させます。それに加えて、学科専門科目を、1年次以降、段階的に増やしながらか履修させることで、それぞれの分野で系統的に基礎から専門に至る知識・技術を習得させます。特に、学科専門科目におい

ては、少人数教育を広く取り入れ、懇切かつ丁寧な教育指導を行うことで、学術に対する広い視野や柔軟な思考力を育みます。学部教育の集大成として、研究室配属を通じて行う個別指導による卒業研究等を行い、課題を見出し解決する能力や表現力、国際的なコミュニケーション力を高めるとともに、学術的な倫理観を身につけさせます。

成績評価は、定期試験、小テスト、レポート課題に加え、主体的に授業に参加しているかの評価などを基に行います。また、卒業研究等では、履修した内容の習得度を総合的に最終評価します。

## **アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）**

生命環境学部では、生命や環境に関して深い関心を持ち、それらが関係する領域の第一線で活躍する意欲に溢れる次の資質を持つ人を求めています。

### **【入学前に修得しているべき能力】**

1. 高等学校等における各種学習内容を幅広く理解している
2. 生命と環境に関する基礎学問である自然科学系科目を論理的に理解している
3. 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自分の考えを的確に述べる基本的なコミュニケーション能力を身につけている

### **【入学者選抜の方針】**

本学部の入学試験では、一般選抜においては、大学入試センター試験において1. について評価すると共に、特に前期日程において、個別学力検査を実施することで2. について記述式問題の解答を通じて評価します。さらに推薦入試では、3. に対する評価も実施して優れた人材を見出します。それぞれの入学試験における配点は、学科ごとに異なりますが、いずれもそれぞれの学科が求める基礎学力に応じたものとしています。編入学試験では、環境・情報科学科と環境デザイン学科が実施しており、それぞれの学科が求める基礎学力や意欲に応じる人材を見いだすための評価を行います。

## 生命環境学部生命分子化学科

生命分子化学科は、生命現象と生命環境を分子レベルで理解し、科学の進歩と社会の科学的課題の解決に貢献することを目的として、少数精鋭の実験を重視した体系的な生命化学の教育研究を行い、広い視野と論理的思考力を有し、専門知識と先端技術を展開して社会に貢献できる次のような人材の育成を目指します。

1. 「化学」を基盤として生命科学を学び、生命現象の解明、医薬品開発、機能性材料の創成、地球環境の保全といった社会の要請に応える人材を育てます。
2. 高い倫理観と使命感に裏付けられた問題発見・提起力とともに、着実な論理の積み重ねによる問題解決能力を身につけた社会を先導する人材を育てます。

この目的を実現するために、生命分子化学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

生命分子化学科では所定の年限で必要単位を取得し、次のような能力を身につけた学生に学士（農学）の学位を授与します。

<教養力>

1. ものごとの背景を的確に分析して独自の方向性を見出し、その実現に向かって行動するための原動力となる、自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養と基礎技能を身につけている。

<専門領域における知識と理解力>

2. 「化学」を基盤として、生命科学における広く深い学識と理解力に基づき、社会で活躍するための高度な専門性を身につけている。

<専門領域における挑戦・遂行力>

3. 高い倫理観と使命感に裏付けられた問題発見・提起力とともに、着実な論理の積み重ねによる問題解決能力を身につけている。

<コミュニケーション力>

4. 国際社会の一員としての基本的な情報発信とともに、正当な評価と冷静な議論に基づくコミュニケーションを実践できる。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生命分子化学科は「化学」を基盤として生命科学を学び、生命現象の解明、医薬品開発、機能性材料の創成、地球環境の保全といった社会の要請に応える人材を育てる学科です。また、生命分子化学科では、ナノフォトニクス、分子ナノテクノロジー、合成・創薬化学、抗体化学、酵素化学、生化学、微生物化学、さらには分析化学、環境化学まで、ナノからテラまでを網羅した研究が行われています。この幅広い研究活動に基づいて、学術研究や産業界で能力を発揮し先導できる高い汎用的技能を有した人材を養成すべく、講義と実験を連携した高密度な少人数教育を行っています。下記の1～7の講義・実験等において、確かな理解と実践力を評価します。

1. 豊かで柔軟な人間性の涵養と、学問の世界に踏み込むにあたり、広く深い見識と基礎技能を身に付けるために、教養教育科目（教養基礎科目・キャリア育成科目・教養総合科目）を1～2年次を中心に卒業年次まで配置する。
2. 生命科学における視野を広げ、問題意識を育て、将来を展望するために、学部共通科目を1年次を中心に配置する。
3. 生命科学における専門科目を学ぶにあたり、必要な基礎理論や基本的な知識を身につけるために、学科基礎科目を1年次に配置する。
4. 生命科学の種々の分野における高度な専門知識と研究活動・社会活動に即した応用力・展開力を身につけるために、学科専門科目を体系的に配置する。
5. 研究やプロジェクトを遂行する能力を身につけるために、学科基礎科目と学科専門科目の中に実験科目と「専攻科目実験及び卒業論文」を重点的に配置する。
6. 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養うために、教養基礎科目の中に外国語科目と学科専門科目の中に「科学英語」を配置する。
7. 社会を先導する人材に必要な発信力・質問力・問題提起能力を育成するために、学科専門科目の中に「専攻科目演習」を卒業年次に配置し、学生も発表・質疑応答を行う活発な研究室ゼミ・学科セミナー・卒業論文発表会を展開する。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

生命分子化学科では化学をはじめとする理科に強い興味があり、論理的で、自主性と想像力に富んだ人間性を高めたい人を求めます。また、入学後も一層の勉学意欲と向上心を持ち続け、厳しい学力評価に耐えうる心構えを持っていることが望まれます。

### 【入学前に修得しているべき能力】

生命分子化学科が求める学生は、入学前に次のような資質を有している必要があります。

1. 高等学校での基礎的諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民）について十分な基礎学力を身につけている。
2. 特に化学、物理、生物、数学のいずれか、もしくはいくつかに秀でている。
3. 基本的な読解力・思考力・表現力を兼ね備え、基礎課題に対して自らの表現方法で的確に解答できる。
4. グループ実験や研究活動を遂行するための論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性が高く、積極性とチャレンジ精神に富んでいる。

### 【入学者選抜の方針】

生命分子化学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

- 一般選抜（前期日程）

大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民を課して上記1を評価するとともに、個別学力検査において記述式問題を中心とする数学、理科、英語を課して上記3を評価する。個別学力検査では、上記2の観点から理科の配点を高く設定する。

○ 一般選抜（後期日程）

大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語を課して上記1を評価する。上記2の観点から理科および数学の配点を高く設定する。

○ 推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書・調査書・志望理由書・面接において上記1と4を評価する。面接では上記2の観点からの評価も重視する。

生命環境学部生命分子化学科 カリキュラムツリー

科目分類	教養教育科目			教養基礎科目(外国語) および科学英語	学部共通科目	学科基礎科目	学科専門科目(講義)	基礎実験、専攻科目実験 および卒業論文
科目の趣旨	豊かで柔軟な人間性の涵養と、学問の世界に踏み込むにあたり、広く深い見識と基礎技能を身に付ける			国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を養う	生命科学における視野を広げ、問題意識を育て、将来を展望する	生命科学における専門科目を学ぶにあたり、必要な基礎理論や基本的な知識を身につける	生命科学の種々の分野における高度な専門知識と研究活動・社会活動に即した応用力・展開力を身につける	各種の実験手技とデータ解析、および研究報告の基本を学ぶ 研究やプロジェクトを遂行する能力を身につける
学年								
1年次	教養基礎科目	教養総合科目	キャリア育成科目	教養基礎科目(外国語)	生命環境学概論 生命の分子化学	基礎化学I 基礎化学II 生化学I 基礎生物学I 基礎生物学II 基礎物理化学 生命環境物理学 他		化学実験および同実験法 物理学実験および同実験法 生物学実験および同実験法
2年次				教養基礎科目(外国語)		物理化学 分析化学 有機化学I 有機化学II 生化学II 地球環境学 細胞分子生物学 他	タンパク質化学 発酵生理学	生命分子化学実験I
3年次				科学英語I 科学英語II			生物物理化学 無機化学 機器分析学 有機機能物質化学 有機合成化学 細胞情報化学 応用微生物学 環境生物学 他	生命分子化学実験II, III, IV
4年次				専門科目演習				

## 生命環境学部農学生命科学科

農学生命科学科は、「ゲノムから生産・流通まで」の方針のもと、生物機能の開発とその高度利用技術、それらの社会経済的側面について教育・研究を行い、農業とそれに関連する諸産業の発展に広い視野をもって寄与できる人材を養成します。

この目的を実現するために、農学生命科学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

農学生命科学科ではディプロマ・ポリシーを定め、以下の項目を修得した学生に学士（農学）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性につながる幅広い教養と技能を身につけている。
2. 農学と生命科学の基礎知識を身につけている。
3. 「植物生産科学コース」では、生物の生産性向上につながる基礎知識と技術、ならびにその社会科学的側面に関する知識を体系的に身につけている。
4. 「生物機能科学コース」では、生物の機能開発につながるゲノム情報、遺伝子機能、生命現象などについての基礎知識を体系的に身につけている。
5. 農学と生命科学の分野で未だ解明・解決されていない諸問題に取り組む能力を身につけている。
6. 体得した知識や技術を、農業生産やその経営・流通のみならず、食品や医療などを含めた様々な産業分野の発展につなげることのできる能力を身につけている。
7. 持続的農業や食料生産の問題について国際的な視野を持ち、それらに取り組める語学力と技術力、倫理観を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

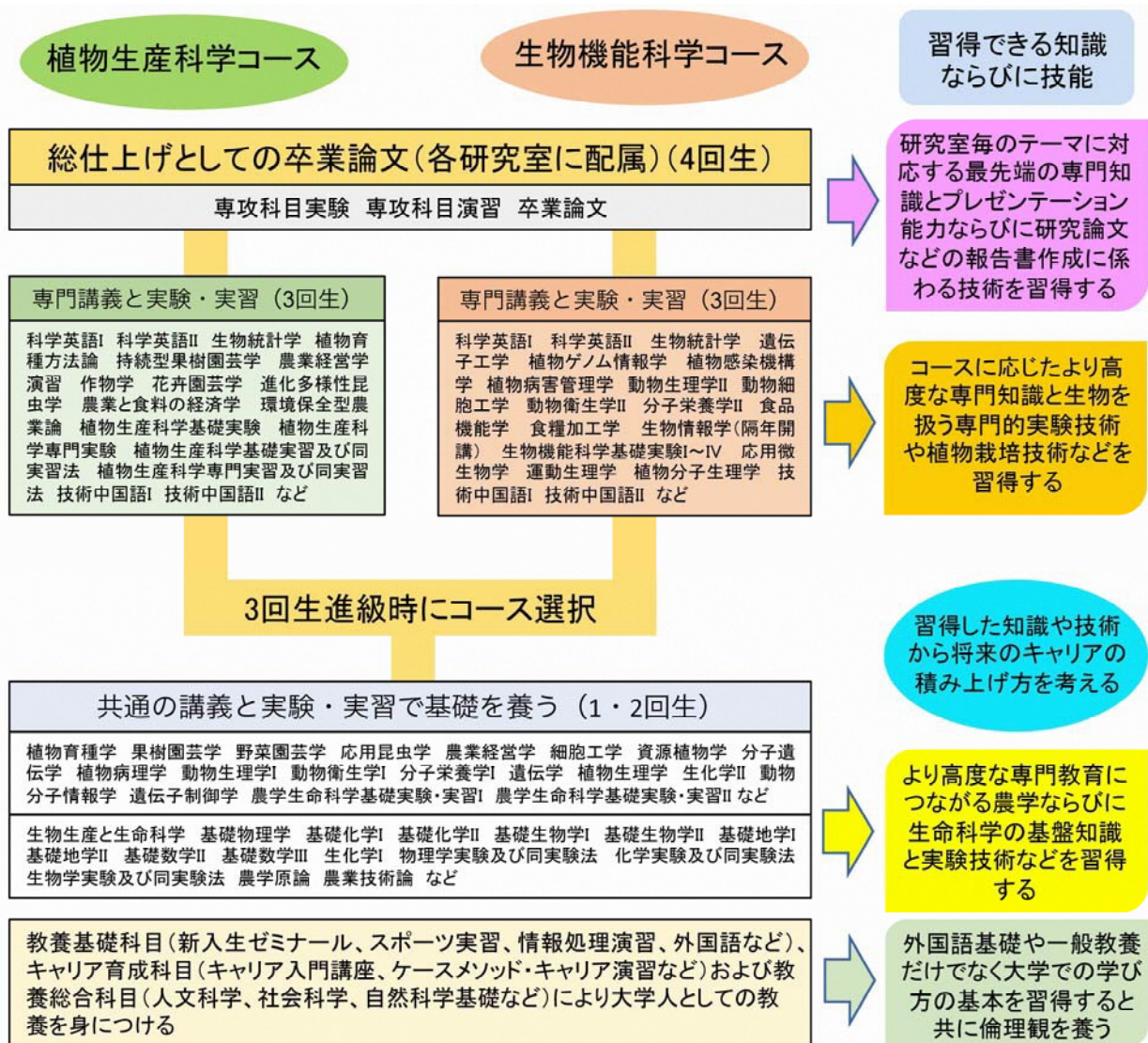
農学生命科学科では、生命科学を教育の基盤とし、その上で農学の基礎から応用に関わる幅広い分野の専門知識を身につけられるように、以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。

農学生命科学科では、「植物生産科学コース」と「生物機能科学コース」の2コースを設け、それぞれの専門性を生かした高度な教育をおこなう。また、必須科目数を減らして選択科目数を増やすことで、学生が各自の興味や目的に沿って必要な知識や情報を体系的に身につけられるようにカリキュラムを構成している。

- 1回生では進級するコースにかかわらず、大学が提供する教養教育（教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目）をとおして、語学力を高め、社会の様々な事象についての知識や考え方、ならびに倫理を学び、自然科学の基礎知識を身につける。特に自然科学については、高等学校までに学んだ知識のレベルを越えて、大学レベルでの研究の面白さを学ぶ。これらの教養教育を通じて、様々な事柄を自分自身で考え、理解する大学での学び方の基本を身につける。また、専門教育につながる基礎的な実験・実習を通して、観察や実験についての基礎的技法を学ぶ。
- 2回生では2つのコースにまたがる専門の基礎知識を幅広く身につける。農学生命科学科の学生として必要な遺伝学、分子遺伝学、植物生理学、動物分子情報学などを学ぶほか、学科の各研究室の専門分野に関する基盤的な講義を受講する。合わせて、生物学実験のより高度な技法を身につける。2回生までの教育をとおし、学生は自らが将来どのようなキャリアを積み上げるのかの方向性を見定め、進級するコースを決める。
- 3回生では2つのコースに分かれ、それぞれのコースを構成する研究室が提供するより高度な専門教育を受ける。生命科学研究の国際性に対応するため、いずれのコースでも科学英語を必修科目として位置づけ、英語論文の読み方の基本を学習する。また、生物統計学を履修することでその素養を身につける。

・4回生では、「植物生産科学コース」は植物育種学、果樹園芸学、野菜花卉園芸学、応用昆虫学、農業経営学、細胞工学、資源植物学の7研究室、「生物機能科学コース」は植物病理学、植物ゲノム情報学、遺伝子工学、動物機能学、動物衛生学、分子栄養学の6研究室に所属する。ここでは、3回生までに身につけた知識や技術を基礎とし、これに加えて各研究室で身につけるべき高度な知識と技術をもとにした卒業研究に取り組む。研究室ではセミナーによる専攻科目演習によりプレゼンテーション能力を高めると共に、専攻科目実験での結果を整理・議論し、卒業論文にまとめることにより、研究論文を始めとする報告書の書き方を身につける。

## 農学生命科学科のカリキュラムツリー



## アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

農学生命科学科では、本学科の方針である「ゲノムから生産・流通まで」にふさわしい学生を求めため、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に習得しているべき能力と意欲】



農学生命科学科では英語、国語、社会、数学、理科（生物、化学、物理）の基礎学力があることを前提として、以下の素養を身につけた学生を求めます。

1. 生物・生命の諸性質や機能に対する興味、そして未知の課題を探究する勇気と強い意志を持ち、生物に関する知識だけではなく、それらを活用して未知の課題に論理的に取り組むことの出来る能力。
2. 科学の基礎的な問題だけではなく、実社会の問題に取り組み、日本や世界の農業と食料の問題、それらに関連する技術、流通経済、諸産業、などに興味をもち、自律的に考え、学ぶ態度。
3. 先端の科学技術を習得し、農学生命科学の最先端の課題にチャレンジすることによって、人類の知と技術の地平を積極的に切り拓きたいという意欲。

#### 【入学者選抜の方針】

農学生命科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

##### ○ 一般選抜（前期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、大学入試センター試験で指定された教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語）に加え、独自に実施する試験で正確な知識に基づき論理的に解答する能力を求める。数学、理科については傾斜配点により理系分野の基礎学力の高い学生を選抜する。

##### 一般選抜（後期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、英語と、理系分野に相当する大学入試センター試験の指定教科（数学、理科）について、正確な知識に基づき論理的に解答する能力のある学生を選抜する。

##### 推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求める。加えて社会の様々な動向にも興味や問題意識をもち、それらを分析しようとする探究心と自分の考えを正確に他人に説明する能力をもつ学生を、提出された推薦書・調査書・志望理由書の精査と面接などを含む試験により選抜する。

## 生命環境学部食保健学科

食保健学科は、「食」を通して生活の質を向上させることを目的として、「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、望ましい食生活のあり方について教育研究を行い、「食」に関する高い見識を持ち、課題解決能力を持った、社会に貢献できる人材を養成します。

この目的を実現するために、食保健学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

食保健学科では、幅広く見聞を広め、多面的な視点・価値観を身につけ人生に生かすための教養教育、および食に関する深い知識を学びそれを現場で活用する技能を身につけるための専門教育を行います。人々の生活の質（QOL）を多面的な視点から捉え、食物と食生活をとりまく課題の発見・解決能力をもった専門的職業人として社会に貢献できる以下の能力を持った学生に学士（食保健学）の学位を授与します。

#### <知識・理解>

1. 生命科学分野の基礎から専門分野への展開を可能とする基礎学力を身につけている。
2. 現代社会の「食」に関する諸問題を理解できる必要な知識を身につけている。
3. 研究・開発を推進するための専門的な技能および論理的思考力、問題解決力を有している。

#### <汎用的技能>

1. 社会人として必要な広い文化的な知識およびグローバル社会に対応するための語学力を身につけている。
2. 科学的根拠に基づく情報提供や課題解決に活かす能力およびコミュニケーション能力を有している。

#### <態度・志向性>

1. 心身の健康を保持・増進するための知識と実践力を身につけている。
2. 京都府民・国民の健康と生活の質(QOL)向上に寄与できる能力を有し、責任を持った行動をとることができる。

#### <統合的な学習経験と創造的思考力>

1. 高度な専門的職業人として食保健学の基礎的研究や教育を担うための学習意欲を持っている。
2. 個人および集団の健康・栄養状態等に関する高度な専門的知識および技能を有している。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1～2年次には教養と汎用的技能を育成するための教養教育科目と専門的職業人として多面的・総合的に食を考える能力を育成するための基礎となる科目、3年次には多様な専門教育科目を提供します。また、4年次には食と健康に関する課題の発見・解決能力を育成するために、卒業研究として専攻科目実験および演習を提供します。

1. 1～2年次には、大学生、そして社会人として必要な知識や汎用的技能を習得するための教養基礎科目や教養総合科目、卒後の仕事や生活全般における働き方、生き方を創造する能力を習得するためのキャリア育成科目を提供する。さらに専門的職業人として必要な職業倫理や責任感を理

解するための導入教育科目や4年間の学びの前提となる基礎科目を提供する。

2. 2～3年次には、専門的職業人として食に関する基本的な知識となる「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能」および「食べ物と健康」に関する専門基礎分野、高度な専門知識と技術を習得するための「基礎・応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」および「給食経営管理」に関する専門分野の講義および実習科目を提供する。
3. 3年次には、専門科目の講義や実習より習得した知識と技術を統合させ、実践現場における食の専門的職業人としての社会性や他職種との協働性を学ぶために「臨地校外実習」を提供する。
4. 4年次には、課題の発見・解決能力を習得し、社会において指導的役割を担う管理栄養士、研究者および教育者などの専門的職業人を志す人材を育成するために、卒業研究として「専攻科目実験」および「専攻科目演習」を提供する。
5. 4年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、その卒業論文の内容と発表能力について評価する。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

食保健学科では「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、それについての知識を学び、その知識を生かして社会に貢献したい学生を求めます。

### 【入学前に修得しているべき能力】

食保健学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

1. 高等学校までの基礎的諸教科について十分な基礎学力を身につけている。
2. 理科は理科関連科目（化学と生物を履修していることが望ましい）を12単位以上履修している。
3. 基本的なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 自分の考えを的確に伝えるための表現力を身につけている。
5. 食や健康分野に興味関心があり、この分野を生涯にわたって学ぶ意欲を持っている。
6. 課題の発見・解決への貢献と知識探究に意欲を持っている。
7. 多様な状況下で、相手の立場や多様性を尊重できる協働性を身につけている。

### 【入学者選抜の方針】

食保健学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

#### ○ 一般選抜（前期日程）

基礎力の把握のために、大学入試センター試験（5教科7科目）と個別学力検査（英語、物理・化学・生物から2科目選択）を課し、高等学校で修学した基本的な知識と理解力について評価する。

#### ○ 推薦入試

推薦書、調査書、小論文及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。

小論文では、課題に対する知識、理解力、英語力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価する。面接では、食保健学科の学びの目的意識や意欲、およびコミュニケーション力を総合的に判断する。

# 食保健学科カリキュラムツリー

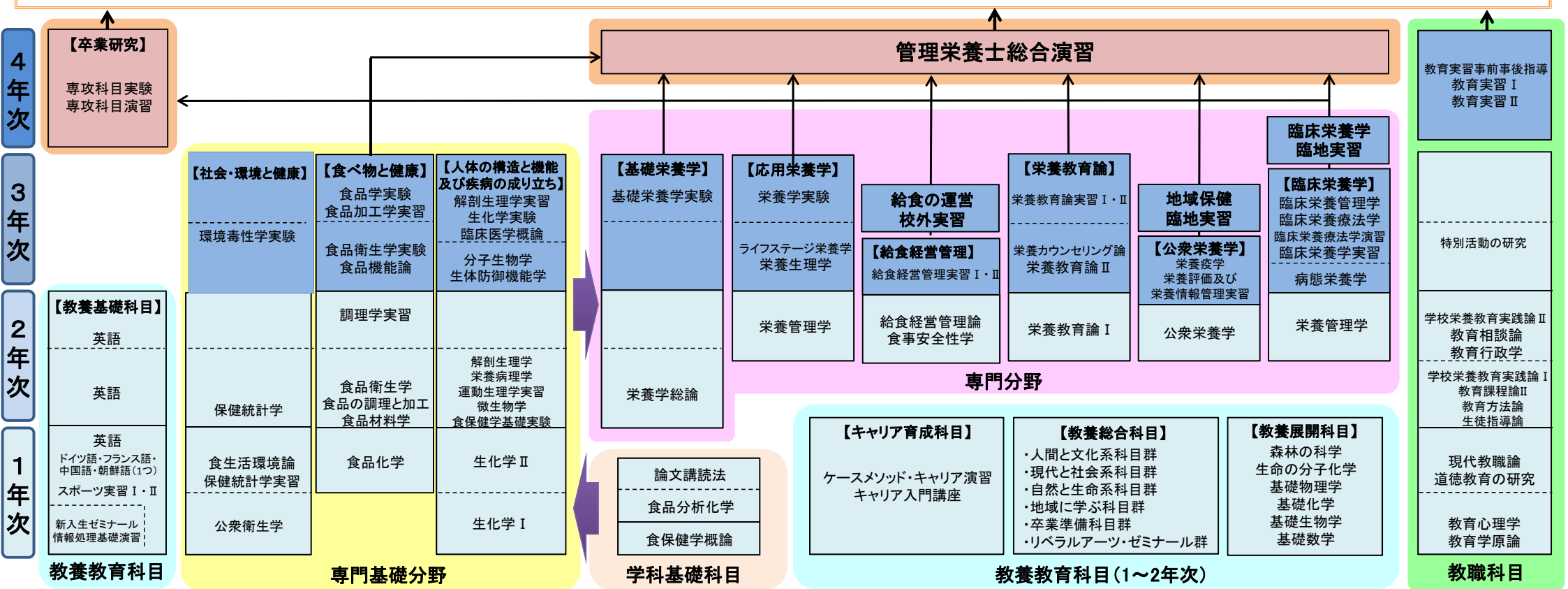
(1~2年次) 大学生、そして社会人として必要な知識や汎用的技能を習得する

(2年次) 食に関する基本的な知識と技術を習得する

(3年次) 食に関する専門的知識や実践的技術を習得する

(4年次) 専門的職業人として食に関する課題の発見・解決能力を習得する

栄養士免許、管理栄養士国家試験の受験資格、栄養教諭、食品衛生監視員、食品衛生管理者など



## 生命環境学部環境・情報科学科

環境・情報科学科は、自然環境、情報環境の向上を目的として、生物学、化学、物理学、情報学、数学にわたる教育研究を行い、科学技術を生活の向上に生かすことができる人材を養成します。

この目的を実現するために、環境・情報科学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

環境・情報科学科は、人々を取り巻く自然環境、情報環境にわたる諸問題を多面的に理解し解決に導ける『視野の広い理工系スペシャリスト』を養成することを目標としています。このため、2年次に主専攻（「情報環境学」、「応用数学」、「応用生物学」、「材料設計学」、「環境計測学」）のいずれか1つに配属され、各主専攻で設定された専門科目を習得します。そして、カリキュラムに沿って設定した所定の単位を修得した学生には、学士（環境・情報科学）の学位が授与されます。さらに、副専攻ごとに設定した科目の単位の条件を満たせば、その副専攻（各主専攻のコア科目群、および、「環境科学基礎」）を修了したことを認定します。

なお、学習目標は以下のとおりです。

1. 豊かな人間性と社会性の礎となる教養、汎用性のある技能、および、将来ビジョンを身につけている。
2. 自然科学、情報科学、数理科学、環境科学の各分野についてバランスのとれた基礎知識を習得して、主専攻の分野の研究に生かすことができるとともに、科学的知見や思考力に基づき、自分の考えを論理的に説明できる力を身につけている。
3. 主専攻の分野の学習内容を研究の礎にできる力、および、自ら実施した研究内容を的確に表現できる力を身につけている。
4. 培ってきた「論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力、国際性やコミュニケーション能力、直観力」に基づいて、主専攻の分野などにおける課題を探究できる力を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

環境・情報科学科では、1年・2年次には、全学共通の教養科目（導入科目、健康教育科目、外国語科目、キャリア育成科目、教養総合科目、教養展開科目）の学びを基に、豊かな人間性と社会性の礎を育む。そして、学部基礎専門科目、学部共通専門科目、および、学科の専門分野の基礎となる、物理学、化学、生物学、情報学、数学、の科目を修得することで、自然科学、情報科学、数理科学、環境科学について、バランスのとれた基礎知識を身につける。

2年次以降では、本人の希望を基に配属された主専攻において、「情報環境学」では、情報伝達論、知能情報処理、マルチメディア論、データベースなど、「応用数学」では、線形代数学、解析学、微分方程式論、数値解析学など、「応用生物学」では、バイオテクノロジー、生化学、分子生物学、細胞生物学など、「材料設計学」では、無機化学、有機化学、計算化学、高分子化学など、「環境計測学」では、電磁気学、放射線計測学、量子力学、剛体の力学などを学び、研究の礎とする。

さらに、主専攻以外の専門分野を体系的に学ぶことを促すため、副専攻として、「情報環境学」、「応用数学」、「応用生物学」、「材料設計学」、「環境計測学」、「環境科学基礎」を設けている。この副専攻のカリキュラムを活用して、主専攻以外の専門科目を体系的に受講し専門性と視野を広げることができる。

幅広い専門科目の理解の上で3年次後期から始まる「卒業研究」では、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力、国際性やコミュニケーション能力、直観力、の鍛錬を通じて、研究開発能力の基盤を培い、さらに、自然科学、情報科学、数理科学、環境科学の各分野での研究開発や、情報・通信業、製造業（電気機器、化学、医薬品、食料品）、教育機関、官公庁などで専門性を活かして活躍できる能力を育む。そして、実験、演習における体験型・参加型の学びと卒業研究などにおいて、思考力・判断力・表現力および汎用性のある技能に磨きをかけることを通じて、科学的知見に基づき自分の考えを論理的に説明できる力、自ら実施した研究内容を的確に表現できる力、を身につける。

なお、成績評価は、主体的に授業に参加しているかの評価、定期試験、小テスト、レポート課題、プログラム課題、を基に行う。当初の成績評価で、単位取得の条件を満たさない場合には、再試験を行うことがある。2年次4月の主専攻配属では、希望者が定員を超える主専攻については、所定の専門科目の成績上位者から順に希望した主専攻に配属する。3年次4月に、主専攻定員の点で受入可能で、かつ、所定の成績の条件を満たせば、主専攻変更を認める。そして、3年次前期終了時点で、所定の単位数を取得していれば、卒業研究に着手できる。卒業研究は、2つのゼミナールと2つの実験からなる4科目（すべて必修）の成績として評価される。卒業成績は、単位を取得した全科目の成績と修了認定された副専攻の数を用いて算定する。

本カリキュラムでは、培われてきた思考力・判断力・表現力を礎として、1年次からの履修科目選択、2年次における主・副専攻の選択などを通じて将来ビジョンを自ら育むことを促すとともに、少人数教育で『視野の広い理工系スペシャリスト』を養成する。

# 『視野の広い理工系スペシャリスト』を養成するカリキュラム

## 教養および自然科学と情報科学の基礎の習得

1・2年次

【教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目、学部基礎専門科目、専門基礎、など】  
 新入生ゼミナール、情報処理基礎演習、健康教育科目群、外国語科目群、基礎数学、基礎物理学、基礎化学、基礎生物学、プログラミング、など

教養および基礎  
 学力を鍛える。

## 2年次から主専攻、副専攻制で、専門性を身につける

2年次

### 主専攻

情報環境	応用数学	応用生物	材料設計学	環境計測学
ビジネス英語				
計算機通論、データ構造とアルゴリズム、情報実験、情報伝達論、知能情報処理、マルチメディア論、情報ベンチャビジネス論、データベース入門、情報システム論、専門英語、など	基礎解析演習 I,II、解析学、微分方程式論、数値解析学、線形代数演習、線形代数演習、複素・フーリエ解析演習、情報社会論、専門英語、など	生物学実験及び同実験法、バイオテクノロジー、植物環境応答論、分子生物学 I、II、細胞生物学、生命情報学、生命科学実験、環境生命科学演習、植物分子生理学、専門英語、など	化学実験及び同実験法、有機機化学 I,II、高分子化学、材料学実験、無機材料化学、量子物理学、計算化学、高分子材料化学、専門英語、など	物理学実験及び同実験法、放射線計測学、基礎エレクトロニクス、量子力学入門、剛体の力学、量子ビーム工学 I,II、環境計測学実験、量子力学、情報機器論、専門英語 など

主専攻、副専攻制  
 で、専門性と広い  
 視野を育む。

上記主専攻の中核となる専門科目からなる副専攻

情報環境学	応用数学	応用生物	材料設計学	環境計測
環境科学の副専攻				
環境科学基礎				
生物学実験及び同実験法、化学実験及び同実験法、物理学実験及び同実験法、地学実験及び同実験法、基礎地学Ⅰ、基礎地学Ⅱ、バイオテクノロジー、水質保全論、環境社会学、環境経済学、生活環境論、地球環境学、地理情報科学、リモートセンシング論				

## 卒業研究

3年次後期から  
 の1年半で、大学  
 教育の集大成。

### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

理工系分野で世界に通用する専門家になるためには、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要です。各理系科目を暗記ではなく理解して、自分の言葉でその内容を語る能力があるかを重要視します。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

環境・情報科学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

1. 高等学校等において各種の学習内容を幅広く理解している。
2. 思考力・判断力・表現力を兼ね備え、培われてきた学力を基に自分の考えを的確に記述できる。
3. 普通科の生徒については、数学Ⅲと理科 12 単位以上を修得している。情報科学科の生徒については、数学は数Ⅲ関連科目を修得し、理科は理科関連科目（本来の理科科目の他に情報関連科目

などを含める)を12単位以上修得している。工業高校の生徒については、数学は数学関連科目(本来の数学科目の他に、応用的な数学を主たる内容とした科目も含める)を13単位以上修得している。理科は理科関連科目(本来の理科科目の他に、応用的な理科を主たる内容とした科目も含める)を12単位以上修得している。

4. 柔軟な発想のもとに思考し、豊かな創造性を身につけている。
5. 社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発への夢を語れる。
6. 先端科学技術を人々の生活の向上に生かそうという意欲をもつ。

#### 【入学者選抜の方針】

環境・情報科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

##### ○ 一般選抜(前期日程)

上記1について、大学入試センター試験において、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課す一方で、上記2について、個別試験の配点を高めに設定し、数学、理科を課し、記述式問題を重視する。

##### ○ 推薦入試

上記3について、これを推薦条件に含め、上記1,2,4-6について、推薦書、調査書、テーマ作文、面接の総合判定を行う。

##### ○ 編入学試験

一般選抜では、上記1,2,4-6について、調査書または成績証明書、英語および専門科目の筆記試験、面接の総合判定を行う。

推薦選抜では、上記1,2,4-6について、推薦書、調査書または成績証明書、小論文、面接の総合判定を行う。



## 生命環境学部環境デザイン学科

環境デザイン学科は、豊かな生活環境の実現を目的として、住居・建築学、生活デザイン・ランドスケープデザインについて教育研究を行うことにより、広い教養と総合的な判断力を持ち、人と環境に優しい生活環境と生活様式の創造ができる人材を養成します。

この目的を実現するために、環境デザイン学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

生命環境学部のディプロマ・ポリシーに基づき、環境デザイン学科では、住居・建築学を基盤として、生活環境や生活空間に関わる専門性の高い「生活者の視点」をもった専門的職業人として社会に貢献できる、以下の知識と能力をもった学生に学士（環境デザイン学）の学位を授与します。

1. 幅広い教養に支えられた人間生活と社会、文化、環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力や自発的に考え主体的に行動できる汎用的能力を身につけている。
2. 住宅・環境・建築分野の専門技術者に必要な倫理観と自然科学、情報技術の知識をもつとともに、グローバル社会に対応できる語学力を身につけている。
3. 人間生活と人間を取り巻く環境に関する専門的知識と深い理解力を身につけている。
4. 住宅、建築、ランドスケープ、インテリア、プロダクトデザインに関する専門的知識と技術、またそれらを活用できる応用能力を身につけている。
5. 建築空間や生活用品を設計・制作するための創造力と表現力を身につけている。
6. 建築空間や生活環境における課題を発見し、与えられた条件のもとで企画・立案・実行するための能力を身につけている。
7. 論理的プレゼンテーション能力や他者と協働するためのコミュニケーション能力を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

生命環境学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、環境デザイン学科では教育課程において以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。

少人数制による丁寧な教育により、専門知識、創造力、俯瞰力、判断力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を鍛えるとともに、自然科学および人文・社会科学の両方に優れ、脱温暖化、安心・安全、環境共生などを目指して建築・都市・地域および生活環境・様式の創造に資する人材を養成しています。

履修すべき科目として

1. 環境デザインに関する広い視野を養うとともに、高度な専門性と深い学識を身につけるための講義や実験・実習。
2. 実践的な企画・計画・設計・デザインおよび解析に関する技能と技術を磨くための建築・住宅・生活用品に関する設計・制作演習。
3. 論理的思考力、課題探求能力、問題解決力を培い、解決策や提案を論理的に伝えるための卒業論文。
4. 地域や社会的諸条件から計画のアイデアとコンセプトを構築し、より良い生活環境としてまとめあげ設計できる専門的能力を培うための卒業制作。

そのために、住居・建築学を基盤としつつ循環型社会、ランドスケープ、プロダクトなどを包摂した専門領域の下で、以下の2つのコース（「住居・建築コース」と「インテリア・生活デザインコース」）を用意しています。2年次後期からは、いずれかのコースに従って単位を取得します。

「住居・建築コース」は、生活環境や生活空間に関わる幅広い教育研究領域を基にしたカリキュラム構成により、建築業界でより専門的な職務に就くための能力を育成します。

「インテリア・生活デザインコース」は、人間環境を取り巻く福祉・造園緑化・生活用品などの多様な社会ニーズへ対応できる人材を養成します。

環境デザイン学科では、建築士養成をベースとしつつ、両コースの専門授業科目群を有機的に統合することで、インテリアから住宅・建築・都市・地域に至る幅広い生活環境を改善し創造しうる能力を修得します。

ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能、実践能力、コミュニケーション力を修得するため、

1. 1年・2年次では、全学共通の教養教育科目である教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目、教養展開科目、および生命環境学部の学部共通専門科目を幅広く履修することにより、深くバランスのとれた教養と基礎的な知識・ジェネリックスキルを修得する。
2. 2年次では、学科共通専門科目の履修により論理的思考力や数理解析力、専門分野における基礎的及び専門的知識・技能を修得する。後期からは、上記2コースの設定により、各専門分野に対応した授業科目群（設計・計画系、環境・設備系、構造・材料設備系、生活デザイン系、地域計画・ランドスケープ系専門科目）を系統的に履修し、インテリア・住宅・建築・都市・地域に至る幅広いテーマについて、その専門基礎的知識と分析・理解力、デザイン・設計力を修得する。
3. 3年次には、環境デザイン実習をはじめとする各種専門科目実験・実習等のより実践的で提案型・体験型の学びを重視した専門科目群の履修を通して、インテリア・住宅・建築・都市・地域に関わる専門家・技術者として行動する実践能力を修得する。
4. 4年次では研究室への配属により、対面指導による卒業研究を通じて、高度な専門能力と深い学識を修得するとともに、自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を修得する。
5. 4年間の学修成果は、卒業研究（必修）によって評価する。可否の評価は、発表用梗概、発表会の内容を含め学科専任教員の合議により行う。卒業研究の履修要件は、3年次終了時点において『学生便覧』の履修規程において必要単位数などの諸条件が規定されている。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

環境デザイン学科では、人と環境にとって望ましい住居、建築、都市、地域、暮らしのデザインについて、生活者の視点から科学的に追及し、総合化し提案する意欲のある人を求めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

環境デザイン学は、住居・建築学を基盤としつつ、循環型社会、ランドスケープ、プロダクトなどを包摂する幅広い専門領域にわたります。

そのために、環境デザイン学科では、つぎのような資質を持つ人を求めています。

1. 高等学校での基礎的な諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民など）についての

十分な基礎学力。

2. 緻密な論理的思考力と判断力、社会に対する洞察力、デザインや造形に強い関心を持ち、表現し提案することへの熱意。
3. 生活環境がもつさまざまな側面を、技術的・文化的・社会的に把握するとともに、それが生み出されていくプロセスを理解し、実際にすぐれたモノや空間を構築したりデザインしたりするための基礎的素養と意欲。

#### 【入学者選抜の方針】

環境デザイン学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

##### ○ 一般選抜（前期日程）

上記1に関する基礎学力の高い人材を見いだすため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、個別学力検査において、外国語と理科を課す。

##### ○ 一般選抜（後期日程）

上記1を確認するため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見いだすため、個別学力検査において美術実技を課す。

##### ○ 推薦入試

上記1については推薦書・調査書・志望理由書で確認し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見いだすため小論文と面接を行う。

##### ○ 編入学試験

上記2、3に関する基礎的な知識や能力の高さを確認するため、英語を課すことにより基礎学力の一端を確認し、上記2、3に関する豊富な知識と意欲・熱意を持つ人材を見いだすため、専門科目と面接を課す。

入学

コース選

ゼミ配属

卒業

ディプロマポリシー(1)-(7)との関係	学年		1回生	2回生	3回生	4回生	
	各学年の獲得目標		バランスのとれた教養と基礎的知識・ジェネリックスキルの修得	インテリア・住宅・建築・都市・地域に至る専門基礎的な知識と技能の修得	提案型・体験型の学びを重視した専門科目群による専門技術者に必須の実践的能力の修得	対面指導による卒業研究・制作を通じ、高度な専門性と深い学識、問題解決能力とコミュニケーション能力の修得	
1・2・7	教養教育	汎用的能力の獲得	教養基礎科目, 教養総合科目, キャリア育成科目	教養展開科目, 応用数学, 物理学実験ほか		専攻科目演習ほか	
	学部基礎, 学部共通	生命環境学の基礎理解力の獲得	生命環境科学概論, 情報処理概論ほか	環境政策論			
	学科共通	論理的思考力・文章力の獲得	論文講読法 I		論文講読法 II ほか		
		数理解析力の獲得	基礎数学, 基礎物理学ほか	解析学ほか			
	実践的デザイン・設計力の獲得	環境デザイン実習 I, II ほか	環境デザイン実習 III, IV A, IV ほか	環境デザイン実習 V A, V B, VI, 建築CAD演習ほか			
3・4・5・6	設計・計画系	住宅・建築計画・設計力の獲得		住宅設計学, 建築計画学, 住空間計画学ほか	建築・インテリアデザイン論 ハウジング論ほか		卒業研究 一級建築士・二級建築士の登録資格取得
		史的分析・理解力の獲得		西洋建築史, 日本建築史	都市・住居史, 近代建築史		
	環境・設備系	建築環境学的分析・理解力の獲得		建築環境工学 I・II	住環境工学実習, 住環境学実験		
		建築設備学的分析・理解力の獲得		建築設備学 I	建築設備学 II, 住環境計画論		
	構造・材料系	建築構造学的分析・理解力の獲得	建築基礎解析学, 一般構造学	構造力学 I・II	建築構造論 I・II, 建築構造実験及び同実験法	建築生産	
建築材料・生産工学的分析・理解力の獲得			建築材料学	建築施工法			
生活デザイン系	インテリア・プロダクトデザイン力の獲得		色彩学, 人間工学, インテリア・プロダクトデザイン論 I	インテリア計画学, インテリア・プロダクトデザイン論 II, デザイン史			
生活学・生活文化・生活美学的分析・理解力の獲得		住生活学	生活文化論				
地域計画・ランドスケープ系	地域・環境計画学的分析・理解力の獲得		地域・都市計画学	環境配慮型生活論, 住環境管理学, 都市政策論			
ランドスケープ学的分析・理解力の獲得			ランドスケープデザイン論	緑環境システム学			
学芸員資格	学芸員資格取得対象科目			博物館概論・博物館経営論ほか	博物館資料保存論・博物館教育論ほか	博物館実習ほか	学芸員資格取得

## 生命環境学部森林科学科

森林科学科は、地球環境の保全、森林資源の有効利用を目的として、森林とその生産資源に関係する事象に対して総合的な教育研究を行い、環境問題、資源問題への取り組みを通じて地域貢献、ひいては国際貢献できる人材を養成します。

この目的を実現するために、森林科学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

森林科学分野における学術を探究し、基礎的・専門的知識、幅広い教養と社会性、協調性などを兼ね備えた人材を育成することを目的として、基礎および専門の教育カリキュラムを定めています。また、論理的思考力や客観的分析力、問題発見およびそれらを解決する能力を養うため、卒業研究を課しています。森林科学科で設定された教養教育科目および専門教育科目の講義ならびに実験・演習・実習の単位を修得し、卒業論文の作成、論文内容の発表を行って、以下の項目にある能力を身につけた学生に対して、学士（農学）の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性を育み、幅広い社会性・教養を身につけている。
- 2) 論理的に思考できる能力、自分の考えを的確に伝えることができる表現力、他人と相互理解できるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3) 社会人としての倫理観、協調性を身につけている。
- 4) 森林科学に関する基礎的・専門的知識を体系的に理解している。
- 5) 実験・調査・野外調査を通じて、課題を発見する能力、課題を解決する専門的能力を身につけている。
- 6) 社会の一員として、産業の発展、地域あるいは国際社会に貢献する意欲を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

森林の持つ諸機能を総合的に理解し、それらの機能を十分に発揮させるための教育を行います。具体的には、森林の生物群集、木材資源の生産、水資源の涵養、災害防止、さらには、地球規模での環境保全機能と、それらの機能を発揮させるための適切な森林管理や木質系資源の有効利用などについて総合的に教育します。特にフィールドでの実践と自然を見る目を養うことを重視します。

具体的な教育の実施方針は以下のとおりです。

- 1) 教養教育科目を通して、人文科学・社会科学・語学・数学・自然科学の基礎知識に精通する。さらに知識の活用のために必要となる情報技術やその応用能力を養う。
- 2) 「情報処理基礎演習」「新生ゼミナール」などを通して、修得した知識や解析結果を論理的に分かり易く取りまとめ、地域社会・国際社会で発表・討議するために必要となる基礎的なプレゼンテーション技術を習得する。
- 3) 「生命環境学概論」などの基礎的専門科目を通じて、森林の多面的な機能を理解し、「森林科学基礎実習」「森林科学総合実習」などの実習科目を通して、森林が有する自然的要因と人為による影響の関係を理解・分析し、社会的責任や技術者の倫理に基づいて行動する能力を養う。
- 4) 「京都の農林業」「京都の自然と森林」「森林植生学」「森林計画学」「砂防学」などを通して、古都京都の周辺地域における歴史的・文化的特性、ならびに、太平洋側から日本海側に至る近畿圏の地理的・植生的特性に関する理解を深め、森林の公益的機能の保全と管理・防災機能の発揮に関する基礎知識と能力を修得する。また、「木材組織学」「木材物理学」「木材化学」などの科目を通して、森林資源である木材の基礎的な理解を行い、「森林資源循環学」「木質資源利用化学」などにより木質系資源の持続的循環利用といった知識を得る。このようなカリキュラムを経て、森林の保全と森林資源の利用について総合的かつグローバルな視点を養う。
- 5) 「キャリア入門講座」などのキャリア育成科目や「森林科学特別実習」などを通して、多様化する社会の要請に対応するために必要となる知識や技術を自発的に継続的に学習し、それらの学習成果を課題解決のために応用する能力を養う。

- 6) 持続的資源循環の観点から、森林資源の現状や構造・機能を理解し、自ら課題をみつけ、その課題を解決する能力を養う。
- 7) 4年間の学修成果は必修科目である「卒業論文」「専攻科目実験」「専攻科目演習」によって行い、卒業論文の作成や論文内容の発表について評価する。

## **アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）**

森林科学科では、森林に対して興味や探究心を持ち積極的に学ぼうとする人、論理的な思考力や判断力を持って自ら問題を解決できる人、社会の一員として地域貢献や国際社会で活躍する意欲を持っている人、そういった学生を求めています。

以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

### **【入学前に修得しているべき能力】**

#### 1) 数学、理科に関する基礎的学力

森林科学の基礎的な学問体系となる数学および理科に関する基礎的な学力および分析力、理解力などを有している。

#### 2) 国語、英語に関する基礎的学力

英文長文などの読解力、論理的に思考できる能力、自分の考えを的確に伝えることができる表現力、他人と相互理解できるコミュニケーション能力などを有している。

#### 3) 地理歴史・公民の基礎的学力を有している。

#### 4) 自然や科学に対する興味と探究心を持ち、森林に関する諸問題を積極的に学ぼうとする意欲を持っている。

#### 5) 自然を慈しみ、自ら問題点を発掘し、物事を論理的に考え、広く社会の状況を把握できる能力を持っている。

#### 6) 森林に関係する分野において、産業の発展、地域貢献さらには国際的な視野に立った活躍を目指す意欲を持っている。

### **【入学者選抜の基本方針】**

森林科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

#### ○一般選抜（前期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより基礎的な学力を評価する。個別学力検査として、数学、理科、外国語を課し、これらの配点を高めに設定し、記述式問題を重視することにより論理的思考力、長文読解力などを評価する。

#### ○一般選抜（後期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより、基礎的な学力に特化した評価する。

#### ○推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書、調査書、志望理由書および面接などの試験により総合的に評価する。

生命環境学部森林科学科カリキュラムツリー

	教養教育科目を中心とした多様な学問領域にわたる知識と技能の修得				森林科学科における専門科目の知識と技能の修得			
	自然科学に関する基礎知識の修得	生命科学に関する基礎知識の修得	表現力、コミュニケーション能力の修得	汎用的知識・技能の修得	講義を通じた専門知識の修得	専門実験・実習・演習による専門知識の修得	専門語学演習によるコミュニケーション能力の修得	総合的な論理的思考力、表現力、分析力の修得
4回生						森林科学総合実習		卒業論文 専攻科目実験 専攻科目演習
3回生				キャリア・デザイン演習 など	森林生理生態学 森林計画学 森林資源循環学 生物材料利用化学 樹木保全学 砂防学 流域情報学 森林資源育成学 物質循環学 測量学 リモートセンシング論 地理情報科学など	森林科学総合実習 測量学実習 林産学実験及び同実験法	科学英語 技術中国語	
2回生	植物生態学 植物生理学 植物栄養学など	環境政策論など	外国語など	日本国憲法 現代社会と法 人権論 地域創生フィールド演習 ケースメソッド・キャリア 演習など	森林植物学 森林植生学 木材組織学 木材物理学 木材資源利用化学 木材化学 森林計測学 材料力学 山地防災学 森林水文学 溪流水文学 生物統計学など	森林植物学実習 森林植物学実験及び同実験法		
1回生	基礎物理学 基礎化学 基礎生物学 基礎地学 化学実験及び同実験法 物理学実験及び同実験法 生物学実験及び同実験法 など	生命環境学概論 人間生活と環境 情報処理概論 生物生産と生命科学 生命の分子化学 京都の農林業 京都の自然と森林など	外国語 新入生ゼミナール 情報処理基礎演習など	京都の歴史 京都の文学 京都の地域創生 現代社会とジェンダー キャリア入門講座など	森林の科学など	森林科学基礎実習		